



オペラ歌手 岡村喬生

三部作上映会

『ブッチーニに挑む 岡村喬生のオペラ人生』

群馬交響楽団創立70周年記念

『蝶々さん群馬にはばたく』

『岡村喬生 57年目の「冬の旅」』



7月9日(日)

日比谷コンベンションホール (大ホール)

チケット 一作品につき1000円^{税別} 全席自由席

●午前の部 (開場は10:15を予定しております)

10:30 『ブッチーニに挑む 岡村喬生のオペラ人生』(88分)上映

12:00頃終了予定

●午後の部

13:00 飯塚俊男監督挨拶

挨拶終了後 群馬交響楽団創立70周年記念『蝶々さん群馬にはばたく』(71分)上映

15:00 『岡村喬生 57年目の「冬の旅」』(89分)上映

16:30 終了予定



オペラ歌手岡村喬生は1959年、始まったばかりのイタリア政府給費留学生として、オペラの本場で声楽を学び、以来20年間ヨーロッパで国際的なオペラ歌手として活躍した。帰国後テレビ、映画、ミュージカルなどでも活躍。近年はライフワークの「冬の旅」を歌い続けるとともに、オペラ「蝶々さん夫人」の台本改訂と日本文化に即した演出に力を注いでいる。

『ブッチーニに挑む 岡村喬生のオペラ人生』



監督 飯塚俊男
製作 アムール+バンドラ 配給 フレンド



日本文化の誇りを胸に イタリアオペラのタブーに挑む!

ブッチーニ作のオペラ『蝶々夫人』の脚本中の日本理解の間違いをただす岡村。オペラの本場イタリアで、岡村版『蝶々夫人』の舞台を実現させるまでドキュメントした道真の作品。長年に亘りてきた岡村の思いとは…

(2012年/カラー/1:1.85/88分)

群馬交響楽団創立70周年記念 『蝶々さん群馬にはばたく』

「群響はオーケストラのバイオニアだ。
日本で初めてだという歴史は変わらない」
——小澤征爾

戦後全国に先駆けて オーケストラを育てた群馬で 岡村喬生が凱旋公演

監督 飯塚俊男
製作 アムール+群馬県+NPOみんなのオペラ
配給 群馬共興映画社



敗戦からまだ日も間もない1945年に、群馬県高崎市で産声をあげた群馬交響楽団。設立の背景は名作『ここに泉あり』(出演:岸 恵子/岡田英次/小林桂樹)で知られている。群響を支えてきた人々へのインタビューや、現も県内各地で実施されている小中学生への移動音楽教室。一方で岡村喬生が、『蝶々夫人』の日本公演の舞台として群響とのコラボを遊ぶ姿を追う…

(2016年/カラー/1:1.85/71分)



『岡村喬生 57年目の「冬の旅」』

老いと向き合い 名曲「冬の旅」を歌い続ける 岡村喬生の歌人生

監督 飯塚俊男
製作 NPOみんなのオペラ
制作 アムール



岡村喬生がシェーベルトの「冬の旅」を初めて歌ったのは1960年。フランス、トゥールーズ国際音楽コンクールだった。以後、57年間歌い続け、今や岡村のライフワークになっている。

(2017年/カラー/1:1.85/89分)

監督 飯塚俊男プロフィール

東北大学在学中の1969年から小川紳介監督が主宰する小川プロダクションに参加し、ドキュメンタリー映画製作の道に入る。1991年に独立しアムール設立。「小さな羽音」(1992年/文化庁優秀映画賞作品賞)「木と土の王国」(純文映画3部作の第1作/1995年/科学技術庁長官賞)「菅江真澄の扉」(2002年/文部科学大臣賞受賞)など、現在に至るまで著実に製作を続けている。
岡村との出会いは10年余り前。「蝶々夫人」の誇りをただすため情熱を傾ける姿に共鳴し、2015年、自身の出身地群馬での凱旋公演実現に力を尽くす。岡村晩年の10年間に寄り添うように記録してきた作品が今回上映する3本である。
なお飯塚は出身地群馬に根付いた群馬交響楽団の移動音楽教室に焦点を合わせ、教育の原点に迫る映像を制作しようと試みている。



日比谷コンベンションホール (大ホール)

【日比谷公園内日比谷国書文化館 (旧日比谷国書館B1)】
【千代田区日比谷公園1番4号 ※旧・都立日比谷国書館】
東京メトロ丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分
都営地下鉄三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
東京メトロ千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分
JR 新橋駅 日比谷口より徒歩約10分